

日本福祉大学附属高校「総合的な学習」を支援!

—高校生の今後の活動の参考として—



10月4日に附属高校1年生の「総合的な学習」の授業で本学の学生が講義を行いました。
経済学部「地域学」では、地域の見方・調べ方・まとめ方に慣れ、地域を知るための情報の収集・整理・情報の表現を“フィールドワーク”や“ワークショップ”等の学習形態を含め学んでいますが、附属高校の1年生たちも現在、テーマに基づいた調査活動を行い、「総合的な学習」に取り組んでいます。

こうした高校生の学習を支援するために、現代GPの3つのプロジェクトメンバーの学生が、知多半島の身近な生活問題から、文化、伝統など様々な取組みについてパワーポイントを使ったプレゼンテーションを行いました。

発表を終えた学生たちは“話をする側になって「伝える」ということの難しさを改めて実感した”と語り、「教えることを通じて学ぶ」ことを体験する機会となりました。

発表した学生のチーム

廃校になった小学校の活用

- 東栄町の概要
- 2005年までの活動内容

【発表者】

社会福祉学部 3年 榊原 幸さん
3年 松村 優さん



セントレアの現状と課題

- 調査の動機・調査方法
- 空港調査の概要

【発表者】

経済学部 3年 杉浦 稔君
3年 原康 晴君
3年 三貝 豪君



安全・安心のまちづくり

- プロジェクトの概要
- フィールドワークで必要なこと

【発表者】

福祉経営学部 3年 飛石 雅典君
経済学部 3年 對木 大輔君
3年 中谷 卓郎君



フィールドワークで大切な3か条

- 一. 対象の相手を明確に
- 一. キーパーソンの把握
- 一. グループとして主体性を持って関わる

住まいるプロジェクト
飛石君の高校生への
メッセージ

身近なところから調べていくということが、こんなにも広がるのかと思い、すごいと思いました。内容もしっかりしていて、さすが大学生だと思います。目的から今後の活動まで述べていて、とてもわかりやすかったです。こんなにも奥深い活動になるんだと思いました。

わたしたちが学んだこと ～高校生の感想～

プレゼンテーションは、他人に伝えるためがあるので、相手に聞いてもらわないと意味がないんだと気づきました。自分たちが行う時は、極力相手の耳にすぐに入り、なおかつ面白いプレゼンができると思っています。

普段は大学生の話聞く機会がないので、今日たくさん聞けて良かったです。特に調査報告が楽しかったです。やはり、高校生と大学生とではやるのが違うと思いました。大学生の研究はテーマを深く追求するんだと思いました。私もそこまでやれる人になりたいです。

